

猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務契約書（案）

委託業務の名称 猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務

委託料の額 金 円
(うち消費税及び地方消費税額 円)

委託期間 契約締結日から令和7年2月28日（金）まで

上記の委託業務について、委託者「福島県」を甲とし、受託者「 」を乙として、次の各条項により委託契約を締結する。

（委託業務の仕様等）

- 第1条 乙は、別記1「仕様書」に基づき、頭書の委託料（以下「委託料」という。）をもって、頭書の履行期限（以下「履行期限」という。）までに頭書の委託業務（以下「委託業務」という。）を完了し、仕様書に示した成果品（以下「成果品」という。）を甲に提出しなければならない。
- 2 前項の仕様書に明記されていない仕様があるときは、甲乙協議して別に定めるものとする。

（契約の保証）

- 第2条 乙は、この契約の締結と同時に委託料の100分の5以上の契約保証金を納付しなければならない。ただし、福島県財務規則（昭和39年福島県規則第17号）第229条第1項各号のいずれかに該当する場合には、契約保証金の全部または一部の納付を免除する。

（権利義務の譲渡等）

- 第3条 乙は、書面による甲の承認を得ないで、この契約により生ずる権利及び義務をいかなる方法をもってするかを問わず、第三者に譲渡し、継承し、委託し、又は請け負わせてはならない。
- （再委託）

- 第4条 乙は、受託事業を一括して第三者に再委託し、又は請け負わせることができない。
- ただし、事業を効率的に行う上で必要と思われる事業については、甲と協議の上、事業の一部を委託することができる。
- 2 乙は、委託事業の一部を再委託するときは、再委託した事業に伴う当該第三者（以下再委託者という。）の行為について、甲に対してすべての責任を負うものとする。
- 3 乙は、委託事業の一部を再委託するときには、乙がこの契約を遵守するために必要な事項について、再委託者と約定をしなければならない。

（委託業務実施状況の報告等）

- 第5条 乙は、委託事業に着手したときは、遅滞なく着手届（様式第1号）を甲に提出しなければならない。
- 2 甲は、必要と認めるときは、乙に対して委託業務の処理状況につき調査し、又は報告を求めることができる。

（委託業務内容の変更等）

- 第6条 甲は、必要と認めるときは、委託業務の内容を変更し、又は委託業務を一時中止することができる。この場合において、委託料の額又は履行期限を変更する必要があると認めるときは、甲乙協議して書面によりこれを定める。
- 2 前項の場合において、乙が損害を受けたときは、乙は甲に対して損害の賠償を請求することができる。この場合の賠償額については、甲乙協議して定める。

（乙の請求による履行期限の延長）

- 第7条 乙は、天災その他その責めに帰することができない事由により、履行期限までに委託業務

を完了することができないことが明らかになったときは、甲に対して遅滞なくその事由を付した書面により履行期限の延長を求めることができる。ただし、その延長日数は甲乙協議して定める。
(損害負担)

第8条 委託業務の実施に関して発生した損害（第三者に与えた損害を含む。）のため必要を生じた経費は乙の負担とする。ただし、その損害が甲の責めに帰すべき事由による場合においては、その損害のために生じた経費は甲が負担するものとし、その額は甲乙協議して定める。

(乙の責めに帰すべき事由による履行期限の延長及び遅延利息)

第9条 乙の責めに帰すべき事由により、履行期限までに委託業務を完了できない場合において、履行期限後に完了する見込みがあると認めたときは、甲は乙から遅延日数1日につき委託料の額に年2.5%の割合で計算した額（100円未満の端数があるときは、その端数は切捨てる。）の遅延利息を徴収して履行期限を延長することができる。

(検査及び引渡し)

第10条 乙は、委託業務を完了したときは、直ちに完了届（様式第2号）を提出するとともに、遅滞なく当該委託業務の処理成果を記載した実績報告書に成果品を添えて、甲に提出しなければならない。

2 甲は、前項の実績報告書を受領したときは、その日から起算して10日以内に検査を行うものとする。

3 前項の検査の結果不合格となり、補正を命じられたときは、乙は遅滞なく当該補正を行い、甲に補正完了の届を提出して再検査を受けなければならない。

なお、この場合の再検査の期日については、前項の規定を準用する。

(委託料の支払い)

第11条 乙は、前条の規定による検査に合格したときは、甲に対して委託料の支払いを請求するものとする。

2 甲は、前項の規定による支払の請求があったときは、その日から起算して30日以内に支払うものとする。

3 甲は、委託業務完了後において、乙に委託業務により発生した収入があると認めたときは、乙に対しその額の返還を命じるものとする。

4 甲は、第1項の規定にかかわらず、乙の請求により必要と認める場合には、委託料の一部を前金払することができる。

5 乙は、前項の規定により前金払を請求しようとするときは、委託料前金払請求書（様式第3号）を甲に提出するものとする。

6 甲は、前2項の規定による支払の請求があったときは、その日から起算して30日以内に支払うものとする。

(契約の解除)

第12条 甲は、乙が次の各号の一に該当するときは、この契約の一部又は全部を解除し、委託料を交付しない、若しくは交付している委託料の一部又は全部を返還させることができる。

一 履行期限までに委託業務を完了しないとき、又は委託業務を完了する見込みがないと明らかに認められるとき。

二 第3条の規定に違反したとき。

三 乙が次のいずれかに該当するとき。

ア 乙が、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号（以下「独占禁止法」という。）に違反するとして、公正取引委員会が、同法第49条に規定する排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき。

イ 乙が、独占禁止法に違反するとして、公正取引委員会が、同法第62条第1項に規定する

課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。

ウ 乙又はその役員若しくは使用人に対し、刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は同法198条の規定による刑が確定したとき。

エ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この条において同じ。）又は暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下この条において同じ。）が経営に実質的に関与していると認められる者若しくは社会的非難関係者（福島県暴力団排除条例施行規則（平成23年福島県公安委員会規則第5号）第4条各号に該当する者）に契約代金債権を譲渡したとき。

オ 役員等（乙が個人である場合にはその者その他経営に実質的に関与している者を、乙が法人である場合にはその役員、その支店又は常時契約を締結する事務所の代表者その他経営に実質的に関与している者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員又は暴力団員であると認められるとき。

カ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

キ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

ク 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしていると認められるとき。

ケ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

コ 再委託契約その他の契約に当たり、その相手方がオからケまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

サ 乙が、オからケまでのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合（コに該当する場合を除く。）に、甲が乙に対して当該契約の解除を求め、乙がこれに従わなかったとき。

四 前各号の一に該当する場合を除くほか、この契約に違反し、その違反によって契約の目的を達することができないと甲が認めるとき。

（契約が解除された場合等の違約金）

第13条 甲は、次の各号のいずれかに該当する場合においては、乙に対して違約金として契約金額又は契約解除部分相当額の10分の1に相当する金額を請求することができる。また、契約解除により、甲に損害が生じた場合、乙に対して甲が算定する損害額を請求することができる。ただし、天災地変、不可抗力等乙の責めに帰すことのできない事由による解除の場合は、この限りでない。

一 前条の規定によりこの契約の全部又は一部が解除されたとき

二 乙がその債務の履行を拒否し、又は、乙の債務について履行不能となったとき

2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第二号に該当する場合とみなすものとする。

一 乙について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人

二 乙について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人

三 乙について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等

(談合による損害賠償)

第14条 甲は、この契約に関し乙が次の各号のいずれかに該当するときは、契約の解除をするか否かを問わず、賠償金として、契約金額の10分の2に相当する額を請求し、乙はこれを納付しなければならない。ただし、第1号又は第2号のうち命令の対象となる行為が独占禁止法第2条第9項の規定に基づく不公正な取引方法(昭和57年公正取引委員会告示第15号)第6項で規定する不当廉売に当たる場合その他甲が特に認める場合はこの限りでない。

一 公正取引委員会が、乙に違反行為があったとして、独占禁止法第49条の規定による排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき。

二 公正取引委員会が、乙に違反行為があったとして、独占禁止法第62条第1項の規定による課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。

三 乙(乙が法人の場合にあっては、その役員又はその使用人)に対し、刑法(明治40年法律第45号)第96条の6の規定による刑が確定したとき。

2 前項の規定は、この契約の履行が完了した後においても適用するものとする。

なお、甲が受けた損害額が前項の規定により計算した賠償金の額を超える場合において、甲は、その超過分に対して賠償を請求することができるものとし、乙はこれに応じなければならない。

(個人情報の保護)

第15条 乙は、この契約による業務を行うため個人情報を取り扱うに当たっては、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)及び別記2「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

(秘密の保持)

第16条 乙は、委託業務上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。ただし、あらかじめ甲の承認を得た場合は、この限りでない。

(著作権の帰属)

第17条 乙は、この契約に基づき作成した成果品の著作権を著作権法(昭和45年法律第48号)第27条及び第28条に基づく権利を含めて、甲に無償譲渡するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、成果物中にこの契約前から乙が著作権を有するもの(以下「乙著作物」という。)が含まれている場合は、乙著作物の著作権は甲に譲渡されないものとする。

3 乙は、成果物に関する著作権者人格権を行使しようとするときは、あらかじめ甲の承諾を受けなければならない。

4 乙は、成果物について他者の著作権その他権利が及ぶものを使用する際は、権利者より事前に二次使用を含めた使用の許諾及び事後において権利の主張を行わない旨の許諾を得るものとする。

(補 則)

第18条 この契約に定めのない事項及びこの契約に定める事項に関する疑義については、必要に応じ、甲乙協議して定める。

(紛争の解決方法)

第19条 前条の規定による協議が整わない場合、この契約に関する一切の紛争に関しては、甲の所在地を管轄とする裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

この契約の証として、本書2通を作成し、当事者記名押印の上それぞれ1通を保有する。

令和6年 月 日

甲 福島市杉妻町2番16号
福島県
福島県知事 内堀 雅雄

乙

(様式第 1 号)

着 手 届

令和 年 月 日

福島県知事 内堀 雅雄 様

受託者 住所
名称
代表者

猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務に着手しましたので届け出ます。

- | | | | | |
|---|-------|-----------------|--------|-----------|
| 1 | 業 務 名 | 猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務 | | |
| 2 | 着 手 日 | 着 手 | 令和 6 年 | 月 日 |
| | | 履行期限 | 令和 7 年 | 2 月 2 8 日 |

(様式第2号)

完 了 届

令和 年 月 日

福島県知事 内堀 雅雄 様

受託者 住所
名称
代表者

猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務を完了しましたので、届け出ます。

1 業 務 名 猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務

2 完 了 日 令和 年 月 日

(様式第 3 号)

令和 年 月 日

福島県知事 内堀 雅雄 様

住所
名称
代表者

本件責任者の所属部署・職名・氏名
本件担当者の所属部署・職名・氏名
連絡先（電話番号・E メールアドレス）

猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務
委託料前金払請求書

令和 年 月 日付で締結した上記委託業務について、委託契約書第 1 1 条第 5 項の規定により
下記のとおり請求します。

前金払い請求額 円

内訳

契約金額	受領済額	今回請求額	残額	備考

前金払いが必要な理由

別記 1

猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務仕様書（案）

本仕様書は、福島県（以下「甲」という。）が〇〇〇〇（以下「乙」という。）に委託する、猪苗代湖の魅力発掘事業委託業務を円滑かつ効果的に運営するため、必要な事項を定めることを目的とする。

1 業務の目的

県民の共有財産である猪苗代湖では、湖水の中性化に伴う自然浄化作用の低下により水質の悪化が顕在化しており、一層の水環境保全対策が喫緊の課題となっている。このような中、猪苗代湖の流域では県や流域自治体、各団体等が主催するボランティア参加型の水環境保全活動が行われており、活動を長期にわたって継続していくためには、世代や地域を超えて、かけがえのない猪苗代湖の水環境を守っていくという意識を共有する必要がある。

本事業では国内外を問わず猪苗代湖を知らない方、水環境保全活動に興味があるが参加したことがない方をターゲットに、様々な立場で猪苗代湖に関わってこられた方々の言葉を通し猪苗代湖の魅力を掘り起こして発信することで猪苗代湖への関心を高め、かけがえのない水環境を未来の世代に継承していくことを目的とする。

2 実施期間

令和 6 年 月 日から令和 7 年 2 月 28 日まで

3 業務概要

パンフレットデータの作成

4 業務内容

- (1) 猪苗代湖に係るパンフレットデータを作成し、甲に納品すること。

※素材として猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会が実施している「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」の入賞作品のデータの提供が可能。

- (2) 乙はパンフレットデータの制作業務に着手する前に次の書類を提出し、甲の承諾を得ること。

・パンフレットデータ構成案

5 提案内容

以下の内容について、本事業の目的を達成するために実施する内容を提案すること。

- (1) パンフレットデータの作成

ア ページ構成及びビジュアルイメージ案

- ・本事業は「ふくしまグリーン復興構想」の事業の一環として実施予定であるため、提案に当たってはふくしまグリーン復興構想のコンセプトを踏まえること。

【ふくしまグリーン復興構想HP】 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/fgr/>

- ・巻頭にインタビュー編を配し、資料編で内容を補足するなど、写真（話者から提供を受けることを含む）や話者の言葉を通じて猪苗代湖の魅力が広く、的確に伝わるように工夫すること。
- ・パンフレットデータはA4サイズで印刷できる内容とし、ページ数は全体で16ページを上限とすること。

イ 掲載する内容について、猪苗代湖への興味関心を高めるような魅力項目案

- ・「また来てみたい猪苗代湖を創る」を基本コンセプトとすること。
- ・魅力項目には水環境を保全するための取り組みを必ず含めることとし、猪苗代湖の魅力を多面的に捉えられるよう、自然環境（水質、動植物）、歴史、文化、産業（農業、漁業）レクリエーション、流域に形成される特徴的な景観等、複数提案すること。

ウ 掲載する内容について、魅力項目に応じたインタビュー対象者の想定案

- ・インタビュー対象者の選定に当たっては対象者にしゃくなげ大使や湖美来応援人などのインフルエンサーを含める等、ターゲットへの訴求力を考慮すること。

エ 掲載する内容について、国外向けに内容を紹介できるような効果的な案

(2) 独自提案

仕様書に記載した項目以外に、本業務の目的を果たすために効果的なものがあれば提案すること。

6 業務実施体制

- (1) 本事業の趣旨、内容を十分に理解し、かつ、業務遂行に必要な知識・能力・経験を有する要員を配置すること。
- (2) 本業務の企画運営スケジュールの管理を適切に行うこと。
- (3) 甲と随時打合せを重ね、無理のないスケジュールで進めることができるよう努めること。
- (4) 業務着手後、必要に応じて紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議の構成員の意見を聴き取り、反映させること。
- (5) 本仕様書に定めのない事項や疑義が生じた時は、双方協議の上、決定するものとする。ただし、明示のない事項にあっても、社会通念上当然必要と考えられるものについては、本業務に含まれるものとする。

7 権利の帰属

- (1) 本委託事業の成果品に関する一切の権利は、原則、甲に帰属するものとする。
- (2) 本業務における成果物の所有権や著作権は、原則としてすべて甲に帰属し、甲は事前の連絡なく加工及び2次利用できるものとする。ただし、乙が従来から権利を有してい

た乙固有の知識、技術に関する権利等（以下「権利留保物」という。）については、乙に留保するものとし、この場合、甲は権利留保物についての当該権利を非独占的に使用できることとする。

- (3) パンフレット等使用する素材について、他者の著作権その他権利が及ぶものを使用する際は、権利者より事前に二次使用を含めた使用の許諾及び事後において権利の主張を行わない旨の許諾を得るものとする。

8 提出書類・成果品について

(1) 提出書類一覧

No.	提出書類	部数	提出期限（委託業務期間内）
1	着手届（様式第1号）	1部	契約締結日から7日以内
2	完了届（様式第2号）	1部	業務完了日から7日以内
3	委託料前金払請求書（様式第3号）	1部	（前金払いが必要な場合のみ） 甲が指定する日
4	実績報告書	1部	業務完了日から7日以内

※実績報告書は紙媒体の他、電子情報媒体（CD-ROM等）でも提出すること。

- (2) 成果品として、以下のものを作製後速やかに納品すること。

・パンフレットデータ（PDF及びアドビイラストレーター形式又はアドビインデザイン形式）

9 その他

- (1) 業務の実施に必要となる経費は契約金額に含まれるものとし、甲は契約金額以外の費用を負担しない。
- (2) 必要な資料及び情報の収集並びに関係者との調整等は業務に含まれる。
- (3) 業務の実施に当たっては、業務の内容及び範囲について、甲と綿密な打ち合わせを行い、その決定に従うこと。
- (4) 乙は、受託業務に関する事項について、甲から報告を求められた場合には速やかに応じること。また、改善が必要な事項については、直ちにこれに応じ、その結果を報告すること。
- (5) 業務に係る記録については、ウェブサイトや報告書等で外部公表する可能性があるため、関係者から事前に了承を得ておくこと。
- (6) 業務の実施に当たり、知り得た内容を第三者に漏らしてはならない。

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 乙は、この契約による業務（以下「業務」という。）を行うに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2 乙は、業務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。なお、この契約が終了した後においても、同様とする。

2 乙は、業務に従事している者に対し、当該業務に関して知り得た個人情報をその在職中及び退職後においてみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど個人情報の保護に関して必要な事項を周知させるものとする。

(収集の制限)

第3 乙は、業務を行うために個人情報を収集するときは、当該業務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

(目的外利用・提供の禁止)

第4 乙は、甲の指示又は承諾があるときを除き、業務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(安全管理措置)

第5 乙は、甲より個人情報の取扱いの委託を受けた場合、行政機関等と同様の安全管理措置を講ずる必要があることから、業務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失及び毀損の防止その他の個人情報の適切な管理のために、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）及び「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（行政機関等編）」に基づき必要かつ適切な措置を講じなければならない。

(複写・複製の禁止)

第6 乙は、甲の承諾があるときを除き、業務を行うために甲から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(作業場所の指定等)

第7 乙は、業務のうち個人情報を取り扱う部分（以下「個人情報取扱事務」という。）について、甲の指定する場所で行わなければならない。

2 乙は、甲の指示又は承諾があるときを除き、前項の場所から業務に関し取り扱う個人情報が記録された資料等を持ち出してはならない。

(資料等の返還等)

第8 乙は、業務を行うために甲から提供を受け、又は自らが収集した個人情報が記録された資料等をこの契約の終了後直ちに甲に返還し、若しくは引き渡し、又は消去し、若しくは廃棄しなければならない。ただし、甲が別に指示したときは、この限りでない。

2 乙は、前項の規定により電子記録媒体に記録された個人情報を消去又は廃棄する場合は、当該個人情報が復元できないように確実に消去又は廃棄しなければならない。

3 乙は、第1項の規定により個人情報を消去又は廃棄した場合は、当該個人情報の消去又は廃棄を行った日時、担当者名及び方法を記載した報告書を甲に提出し、確認を受けなければならない。

(事故発生時における報告等)

第9 乙は、個人情報の漏えい、滅失、毀損その他の事態及びこの契約に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告しなければならない。

2 乙は、前項により報告を行う場合には、併せて被害の拡大防止等の必要な措置を講じるとともに、情報漏えい等に係る対応について甲の指示に従うものとする。

(調査監督等)

第10 甲は、乙における契約内容の遵守状況等について実地に調査し、又は乙に対して必要な報告を求めるなど、乙の個人情報の管理について必要な監督を行うことができる。

2 乙は、前項における報告について、甲が定期的な報告を求める場合にはこれに応じなければならない。

(指示)

第11 甲は、乙が業務に関し取り扱う個人情報の適切な管理を確保するために必要な指示を行うことができる。

(再委託の禁止)

第12 乙は、甲の承諾があるときを除き、個人情報取扱事務を第三者(再委託先が子会社(会社法(平成17年法律第86号)第2条第1項第3号に規定する子会社をいう。)である場合を含む。以下次項において同じ。)に委託してはならない。

2 乙は、甲の承諾に基づき個人情報取扱事務を第三者に委託するときは、この契約により乙が負う個人情報の取扱いに関する義務を再委託先にも遵守させなければならない。

(労働者派遣契約)

第13 乙は、保有個人情報の取扱いに係る業務を派遣労働者によって行わせる場合には、労働者派遣契約書に秘密保持義務等個人情報の取扱いに関する事項を明記しなければならない。

(損害賠償)

第14 乙又は乙の従事者(乙の再委託先及び乙の再委託先の従事者を含む。)の責めに帰すべき事由により、業務に関する個人情報の漏えい、不正利用、その他の事故が発生した場合、乙はこれにより第三者に生じた損害を賠償しなければならない。

2 前項の場合において、甲が乙に代わって第三者の損害を賠償した場合には、乙は遅滞なく甲の求償に応じなければならない。

(契約解除)

第15 業務に関する個人情報について、乙による取扱いが著しく不適切であると甲が認めたときは、甲はこの契約の全部又は一部を解除することができる。この場合の違約金は契約書本文の定めるところによる。